

福祉サービス第三者評価 評価結果

矢向保育園

横浜市鶴見区矢向 5-12-24

運営主体：社会福祉法人 神奈川労働福祉協会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
分類別評価結果	6～16 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	17～24 ページ
利用者本人調査分析	25～28 ページ
事業者コメント	29 ページ

2008年2月15日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	矢向保育園	
報告書作成日	2008年1月29日	評価に要した期間 6ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:07年8月中旬 ~07年10月25日</p>	<p>職員会議やミーティング、または個別に趣旨を説明して、2週間ほどの間、各職員で記入した。</p> <p>小グループ（乳児担当・幼児担当・給食関係・パート職員2グループ）に分かれ、1項目ずつ確認・合意をした。</p> <p>各グループから持ち寄り、可能な限り全職員が参加した会議で、1項目ずつ確認・合意をした。</p> <p>会議の記録を基に、園長と副園長（主任）でまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:07年9月18日~07年10月8日</p>	<p>園児の保護者（59家族）に対して保育園側から手渡し。</p> <p>各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関宛に無記名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 07年11月29日 第2日 07年12月5日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：2歳児以上のクラスで、園児と一緒に食べながら保育観察。</p> <p>午後：書類調査及び園長・副園長に面接調査。途中、職員ミーティングの様子を観察。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：2歳児以上のクラスで、園児と一緒に食べながら保育観察。</p> <p>午後：各クラス担任保育士5名、栄養士1名、非常勤職員1名、副園長に個別に面接調査。その後、理事長・園長・副園長に面接調査。最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 07年11月29日 第2日 07年12月5日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施。園外での活動にも同行した。</p> <p>聞き取り調査は、5歳児以上の園児を中心に、観察調査や昼食で子どもと同席した際に、会話の中で適宜実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

園は JR 南武線の「矢向」駅から歩いて 6 分の住宅街の中に位置し、周辺は川崎市に接し、古くからある住宅と商店が中心ですが、新しいマンションも建ち、若い世帯も増えている地域です。

園の建物は築 31 年、鉄骨平屋の構造です。園庭は広く、周りにはレモンやイチヨウなど大小の木々が並び、子どもたちが栽培に使う畑もあります。保育室内は柵やついたてでコーナーが工夫され、壁面のお便り帳入れや椅子、おもちゃに手作り品が多く、布も多用されていて、大変温かい雰囲気があります。

園児の定員は 1 歳～6 歳で 67 名、開園時間は 7 時～20 時（土曜日は 18 時 30 分まで）です。0 歳児保育を始めることを検討しているため、次年度より増築の計画があります。

2006 年 4 月に横浜市より民間移管された保育園で、社会福祉法人神奈川労働福祉協会が運営しています。法人は他に「小鳩保育園」「横浜市かながわ保育園」を運営し、小鳩保育園は今年 50 周年を迎えました。

法人の保育理念は「子どもたちの『今、ここに生きる』を大切にし、一人ひとりが『かけがえのない存在』と感じて自信を持って生きていく力を育てます」で、園の目標として「矢向保育園は、家庭と地域とのつながりを大切に共に子育てをします」と前書きし「のびのびと元気に遊べる子」「自分で考え行動できる子」を掲げています。

高く評価できる点

1、子どもたちは元気によく遊び、自分で考える力を培っています

子どもたちは、自由遊びの時間には、ままごと、ブロック、絵画、ビーズはめなど自分でやりたいことを選んで、十分に遊びこんでいます。また、絵本やわらべ歌、保育士の静かな声の話にも、幼児・乳児ともに集中してよく聞いています。みんなで一緒にやること、ルールのある遊びや体育遊び、散歩やお出かけなどについて、保育士の話聞いた後は自分で準備をし、行動しています。

子ども同士のけんかも、2、3 歳児になると保育士が互いの気持ちを代弁して、それぞれ相手の気持ちを気付かせたり、「なんていうの」と促して、自分の気持ちを言葉で伝えさせたりしています。4、5 歳児になると、互いに話し合わせたり、周りの子どもたちにも問いかけたりして、自分たちで考えさせるように導いています。週 1 回の体育遊びは、3 歳児以上が専門家の指導を受けながら担任が行っています。観察時は長方形の積み木を使って指示通りに動きながら、途中で動きを止めて、ぶつかることを防ぐルールについて考えさせていました。このように子どもたちは考えることを多く経験し、自分のことも友だちのことも考えるように育っています。

幼児クラスには障がいを持つ子どもが多く在籍しています。特別扱いはしていませんが、クラスの中で役割を受け持つなど集団の中で認められていて、それぞれ落ち着いてみんなと一緒に遊んでいます。

園長以下保育士はおおらかで、全体にゆったりと見守っていて、子どもたちとの信頼関係ができているために、子どもたちはのびのびと生活を楽しくしています。

2、園長以下職員同士はよく話し合い、意欲的に保育の向上に励んでいます

民間移管後 2 年目ですが、園長の強い指導力のもと、園長と職員、職員同士のよい関係が築かれ、全員がまとまって保育にあたっています。月 2 回の職員会議では子どもたちのことをよく話し合い、互いのクラスの様子や子どもたちの状況を共有しています。毎日のミーティングは、夕方の時間に事務室に各クラスから一人ずつが集まって行い、全体への連絡や各クラス間の連携などをとっています。流行ってきたインフルエンザの予防についても、この場で徹底が図られていました。

まだ新しいということもあり、職員は、分からないことは互いに相談し、よりよい保育をしようという意欲があり、研修にも多く参加しています。その結果、園の目標が全クラスの保育にきちんと反映されているだけでなく、子どもたちへの対応、特にはしの扱いやけんかの対処の仕方などに一貫性が見られます。

また、特に配慮の必要な子どもを積極的に受け入れていて、職員は統合保育などの研修に積極的に参加しています。さらに、「もう一つの保育室」となっている事務室におもちゃも用意して、園長・副園長がそこでゆったり一人ひとりの子どもを受けとめ、きめの細かいフォローを行っています。

3、園は子育て支援に熱心に取り組み、地域とのよい関係を築いています

園として公立時代から子育て支援を続けていきましたが、内容を充実させてより熱心に、多くの子育て支援活動を行っています。園庭開放、交流保育、育児講座、区内の保育園が連携して行う地域子育て支援イベント、元気っこ広場（月1回、地域の子育て支援グループに部屋と園庭を貸して、職員も手遊びなど一部を担当している活動）、誕生会への招待、身長体重測定、一時保育などに取り組んでいます。

また、園の行事である夏祭り、運動会、餅つき、世代間交流に地域の人たちを招待し、近隣との関係づくりに努めています。

毎月、近くの地域ケアプラザに3、4、5歳クラスが交代で出かけ、若い親子の集まりに入って交流をしています。訪問調査の日にも、園児は得意な歌や踊りを見せたり、手作りのプレゼントを手渡したり、一緒にわらべ歌を楽しんだりしていました。近くに寄ってきた赤ちゃんの頭をなでたり、折り紙を渡した相手の子どもが喜んだのを見て、照れながらも思わず笑顔が出たり、ほほえましい場面が多く見られました。続いて、高齢者のデイサービスに入って、歌と一緒に歌ったり、プレゼントを渡し高齢の人たちとハイタッチを交わしたりなど、和やかな交流の時間を持っていました。

ケアプラザの行き帰りも、他のクラスの散歩でも、途中で出会う人やお店の人、工事中の人など地域の人たちと自然にあいさつを交わし、会話を交わしていました。「元気だねー」「かわいいねー」などの声かけや優しいまなざしを受け、地域の人たちに温かく見守られていることがよくわかります。

改善や工夫が望まれる点

1、マニュアルをより実地に活かす体制づくりを

各種のマニュアルを作成していますが、まだ民間移管後2年目ということもあり、内容を実態に即して見直すまでにはいたっていません。また、マニュアルを職員全員に徹底して実行に移すことも、今後に残された課題です。園内外の清掃も、チェック表を用いるなどをして、清潔に保つ工夫が望めます。

職員全体はよく連携していますが、非常勤職員にも業務マニュアルを明示すること、研修報告を周知することなどにより、さらに質の高い保育が実践されることと期待されます。

2、計画的な人材育成を

民間移管後の短い間に一貫性のある保育、目的に沿った保育ができているのは、意欲的な職員個々の力に負うところが大きく、職員の経験や能力・習熟度に応じた役割等を明文化するにはいたっていません。理事長は、情報を幅広く収集し、次の時代を展望していますが、目指す園運営を今後も長く押し進めるために、計画的に職員や幹部クラスの人材育成を行うことが望めます。

当評価機関では、「障害」を「障がい」と表記します。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

◇ 保育基本理念は「子どもたちの『今、ここに生きる』を大切にし、一人ひとりが『かけがえのない存在』と感じて、自信を持って生きていく力を育てます」を掲げて、子どもを尊重したものになっています。

障がい児やアレルギー児など特に配慮を必要とする子どもを積極的に受け入れています。クラスの中では特別扱いはせず、一人ひとりに応じた対応をして、子どもたちも楽しく過ごしています。

◇ 保育士の子どもたちへの接し方は穏やかで、子どもたちの話や気持ちを受けとめ、話し方や叱り方も静かです。プライバシーが守れる場所として事務室を使い、園長・副園長が対応しています。虐待については、日頃から関係機関とも密接な連携をとって対応しています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

◇ 保育目標は「のびのび元気に遊べる子」「自分で考え行動できる子」の2つを掲げ、子どもに考えることを多く経験させ、自分でできることは自分でさせて、子どもの自主性を重んじています。

◇ 子どもが年齢に応じて自由におもちゃを選び、それぞれ十分遊びこめるように配慮されています。子ども同士のけんかについても、年齢にあわせて、乳児期は保育士が言葉で代弁したり、言葉で意思を伝えるように導き、幼児期には話し合わせたり、周囲の子どもに問いかけたりして、自分たちで解決するように育てています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

◇ 保育計画は地域や保護者の実情に沿ったものとなっていて、1歳児全員と幼児のうち特別な課題のある子どもには、それぞれ個別指導計画を作成しています。

◇ 民間移管後2年目であり、移管後4年間は運営面の変更箇所について、三者協議会(保護者・横浜市・法人の三者で構成)の了解を得る必要があります。保護者の意見は反映されています。苦情解決体制として、マニュアルを作成し、第三者委員を設置し、迅速に対応する体制があります。まだ年数が浅いため、すべての苦情・要望を蓄積して整理するまでには至っていません。

◇ 健康管理、衛生管理、感染症、安全管理についてのマニュアルを作成しています。

◇ マニュアルを職員全員に徹底して実行に移すことは、今後に残された課題です。

4、地域との交流・連携

◇ 地域のニーズを把握する機会として、園庭開放のほか、子育てサークル・区・ケアプラザ・町会長が一堂に会する意見交換会や子育て支援会議に参加しています。

◇ 地域の子育て支援として、育児相談、園庭開放、交流保育、誕生会への招待、一時保育のほか、鶴見区内の保育園が連携して行う地域の地域育児支援イベントやブロック別イベントに積極的にに関わり、年2回の育児講座も開催しています。

◇ 園の運動会、夏祭り、餅つき、世代間交流に地域の人を招待しています。毎月、幼児クラスが交代で近くの地域ケアプラザを訪れ、子育て中の親子や高齢者と交流を図っています。散歩の途中も、通りがかりの人やお店の人たちとあいさつや会話を交わして、日常的に温かい交流を行っています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

◇ 園の目標は玄関に掲示し、職員採用時や職員会議でも話しています。保護者にも園のしおりや保護者会総会、クラス懇談会で周知しています。

◇ 運営上の重要事項である0歳児保育の開始やそれに伴う増築計画などは、保護者には三者協議会、保

護者会、パワーアッププロジェクト（園と保護者で園の向上を目指す会議）などで説明をし、職員には職員会議で説明をして、協議し、了解を得て進めています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 昨年度に引き続き今年度も保育内容を充実させる年として、職員はできる限り多くの研修に参加し、特に継続的に出席して習得するようにしています。その成果はミーティングや職員会議で報告をし、全員で共有しています。障がい児を多く受け入れているので、積極的に統合保育などの研修を受け、専門機関とも連携して保育に活かしています。
- ◇ 職員は自己評価をして、年度末に園長・主任が面談のうえ達成度を確認し、同時に要望や満足度も把握しています。今後は、職員の役割に応じた期待水準の明文化や、非常勤職員の資質向上に向けた取り組みが望まれます。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。




「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 法人の保育基本理念は「子どもたちの『今、ここに生きる』を大切にし、一人ひとりが『かけがえのない存在』と感じて、自信を持って生きていく力を育てます」であり、園目標は「のびのび元気に遊べる子」「自分で考え行動できる子」の2つで、子ども本人を尊重したものとなっています。 園目標は公立からの移管後、全職員が関わって検討し、新たに「自分で考え行動できる子」を加え、玄関に掲示しています。 保育計画は全職員が関わって2006年4月に作成し、周辺地域や保護者の実情も考慮して作成しています。保育計画に基づき、1歳～5歳までの指導計画を作成しています。 日々の保育の中でも、子どもたちに自分で考えることを多く経験させ、子どもの自主性を大切にしています。子どもたちに1日の流れを絵カードや言葉で説明し、子どもたちは納得し、見通しを持って1日を過ごしています。 保育士は、乳児期には子どものつぶやきやしぐさに共感し、子どもの伝えたいことを導き出すように心がけ、幼児期にも子どもの意見をよく聞き、応えています。クラスだよりにも「自分でしたい、しようとする気持ちを大切に」「次々と新しいことにチャレンジしようと思ったり、それを達成していくことで子どもたちが自信をつけていけるよう援助したい」といった保育士の言葉が多く記されています。 公立からの移管後4年間は、園目標ほか変更部分について、保護者も加わった三者協議会（保護者・横浜市・法人の三者で構成）で了解を得ることになっています。

- 2 子どもの発達や状況
に応じた適切な援助の実施



- ・ 公立からの移管1年目となる昨年度(2006年度)は、全保護者と面接を行い、子どもも同席して保育士が観察し、その観察結果を児童票に記入しています。
- ・ 入園までの生育歴や生活の様子については、児童票に記入し、面接時の記録と合わせて、保育に活かしています。
- ・ 新入園児については、保護者と相談のうえ短縮保育を行い、おしゃぶりなどの心理的に安定する物の持ち込みもできるようにしています。
- ・ 保護者には、連絡ノートで毎日の様子を丁寧に知らせています。同時に1日のクラスの様子をクラスノートに記録して、1週間分を掲示し、保護者が読めるようにしています。
- ・ 年間指導計画にあわせて、月間指導計画を作成し、その中で前月の様子・反省と個人の様子、次月のねらい、内容、環境構成、保育士の配慮・援助、行事、地域交流について記しています。
- ・ 毎月の指導計画についての話し合いは、月末のカリキュラム会議で行い、正職員、常勤職員(フルタイムのパート)、栄養士、調理師が参加しています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・ 建物自体は建てられてから年数が経っていますが、南側に面した保育室は明るく、通風、換気、温度や湿度の管理は適切に行っています。
- ・ 1,2歳児は一室を柵で区切って使っていますが、保育士の話やわらべ歌は静かで、他のクラスに騒音とはなっていません。年長クラスでも、午睡時には隣のクラスにうるさくならないようにと注意され、子どもたちは静かに遊んでいます。
- ・ 温水シャワーの設備は室内と室外にあり、清潔に保たれています。
- ・ 2歳児の部屋には、ままごとのコーナーがあり、遊びによってはさらに柵やテーブルを使ってコーナーを作るなど、落ち着いて遊べるように工夫をしています。
- ・ 食事と午睡の場所は同じ室内でも、柵や仕切りを使って区切るなど工夫をしています。
- ・ 朝夕の時間、異年齢で集まる場所として、5歳児の保育室を使っています。また、リズム遊びやお楽しみ会のときは、4,5歳児室の間の仕切りをたたんで広くし、異年齢で使えるようになっています。
- ・ 園内の清掃については、役割を決めたり、チェック表を用いたりして、清潔に保つことが望めます。

- 4 一人ひとりの子ども
に個別に対応する努力



- ・ 1歳児全員と特別な課題のある幼児には、個別指導計画があります。
- ・ 個別指導計画については、月案作成の職員会議で検討し、また常時話し合いを行い、柔軟に見直しをしています。
- ・ 移管後の子どもの発達記録は児童票と経過記録に記載し、事務所の書棚に保管し、職員はいつでも見ることができるようになっています。
- ・ 子どもたちの様子は、月2回の職員会議で詳細に報告をし、全職員が共有しています。また、今年度は持ち上がりが多く、進級時の引き継ぎは少ないですが、引き継ぎの日を設けています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み




- ・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。
- ・個別のケースについて、職員会議のなかのケース会議、幼児クラス会議で話し合い、記録をしています。
- ・子どもも通っている東部療育センターからの巡回訪問を受けています。そのときはできるだけ多くの職員が出席し、指導内容などは、職員会議で全職員に報告し、保育に活かしています。また、職員は障がい児保育に関する研修を積極的に受け、次の日のミーティングや職員会議で報告し、内容を全職員が共有するようにしています。
- ・現在の建物は1976年に建てられて、玄関、トイレなどはバリアフリーにはなっていませんが、現在計画中の増築後はバリアフリーとなる予定です。現在車椅子の子どもは在籍していませんが、いざとなると抱っこしての移動はできます。
- ・年長クラスには障がいを持つ子どもが4人在籍し、障がい児担当の保育士がついています。障がいを持つ子どもはほとんどの活動と一緒に参加し、特に自由遊びの場面では、他の子どもと自然に関わって遊んでいます。お楽しみ会では入ることができる場面を作って一緒に入れるように配慮され、昼食時に前に立って当番の挨拶を言うなど、集団の中で役割を得てクラスの中にしっかり入っています。担任の保育士は、特別扱いはせず、他の子どもと同じように接するようにしています。
- ・3人のアレルギーのある子どもについては、医師の指示書に従い、毎月、保護者・栄養士・担任とで除去食・代替食について話し合いを行って対応しています。
- ・代替食・除去食が他の子どもたちの食事と見た目が同じようになるよう、努めて配慮しています。例えば、ぎせい豆腐は、卵の入っていないホットケーキミックスを使用し、カレー粉で色をつけて、同じように見えるように仕上げています。
- ・外国籍の子どもや帰国子女などは昨年度、今年度ともに在籍していませんが、今後入園してきた場合は対応する姿勢があります。

- 6 苦情解決体制



- ・苦情受付担当者は副園長で、第三者委員とともに園のしおりや保護者会総会で説明、紹介をしています。
- ・保護者からは意見箱、懇談会、連絡ノートなどで要望・意見を聞くようにしています。また、園長が話しやすい雰囲気づくりに努めているため、直接多くの保護者の声を聞いています。
- ・苦情対応マニュアルがあり、保護者を交えた三者協議会で苦情に対応しています。
- ・園独自で解決が困難な事例はまだありませんが、必要なときには関係機関に相談することができるようになっていきます。
- ・要望や苦情があった場合は、すぐその日のミーティングで話し合い、職員に周知しています。
- ・移管後1年目の昨年度は、保護者からの多くの苦情に対応し解決してきました。また、近隣の苦情も含めて苦情処理簿に記録が蓄積されています。それらの蓄積を整理し、今後活かすことが望まれます。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 344 472 383">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="600 259 1474 645">・ おもちゃや教材は手作りのものが多く用意され、年齢に応じて子どもが取り出して遊べるようになっています。1歳児の部屋にはダンボールに布を貼った箱がいくつかあり、子ども自身が入ったり、小物を入れて押したりして遊べます。2,3歳児の部屋はままごとの道具が豊富です。手作りの台所セット（ガスコンロ、流し台、キッチンセットなど）は部屋の仕切りともなり、じゅうたんを敷いてままごとコーナーになっています。各部屋ともいくつかのコーナーは、棚などで他の空間と区分され、落ち着いて遊べる雰囲気になっています。 <li data-bbox="600 663 1474 824">・ 自由な時間に子どもたちは、思い思いに遊びこんでいます。1人で黙々とままごとに熱中している子ども、言葉のやりとりをしながら絵を描いている子ども、ブロックで共同作業をしている子ども、とさまざまです。十分に遊んだ頃、一斉活動に移ります。 <li data-bbox="600 842 1474 1003">・ 一斉活動、例えば体育遊びでは、楽しく遊ぶとともに、集団活動に必要なルールなどを、遊びの中で体験しながら学んでいます。例えば「車の運転あそび」では、走ると止まるを繰り返し、ぶつかると、交通事故に見立ててルールを考えさせます。 <li data-bbox="600 1021 1474 1227">・ クラスで野菜を栽培し、保育活動にフィードバックをしています。例えば、5歳児はジャガイモを収穫し、皮むきをしたり、調理の方に協力してもらってポテトピザを作ったりもしました。他のクラスもその年齢にあわせて、収穫した野菜で「ちょこっとクッキング」を経験しています。 <li data-bbox="600 1245 1474 1361">・ 各クラスでわらべ歌を取り入れていて、子どもたちは歌いながら体を動かしたりして、遊んでいます。乳児は歌いながら、保育士に体を動かしてもらっています。 <li data-bbox="600 1379 1474 1765">・ 子ども同士のけんかについては、成長に従った対応がされています。例えば、乳児ではおもちゃの数を多くそろえて、けんかの起こりにくい環境をつくっています。2,3歳児には、自分の意思や要求を言葉で伝えること、相手の気持ちを理解することを指導しています。幼児では保育士が間に入ってよくよく話し合わせたり、他の子どもたちに問いかけたりして、考えさせたりもしています。いずれの場合も、保育士は落ち着いて静かな口調で、子どもと顔を合わせて対応し、子どもたちはその言葉かけによって落ち着き、信頼関係が感じられます。 <li data-bbox="600 1783 1474 1899">・ 天気の良い日には、積極的に園庭や散歩に出て行き、定期的に体育遊びを取り入れたり、散歩中に100mダッシュをしたりして、体力づくりをしています。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 食事の量は子どもの状態に応じて加減しています。例えば、入園後しばらくは少なめにして様子を見ています。また、嫌いなものは無理に食べさせることはせず、少しでも食べるように励まし、食べると「オー、カッコイイ!!」などと褒めています。
- ・ 食事は、2,3歳児の場合、家庭的な雰囲気を大切にし、子どもの顔を見ながら保育士がよそい、4,5歳児は徐々に自分でよそうようにしています。自分の食べられる量を自分でよそうことで、食べようという意欲を高めています。
- ・ 子どもたちは、自分たちが手で裂いたきのこを炊き込みご飯にしてもらったり、グリンピースをさやから出したりなど、保育の中で実際に食材に触れる経験をしています。その結果、食材や調理に興味を持ち、入園当時に野菜が苦手だった子どもたちも、よく食べるようになっていきます。
- ・ 手打ちうどんの日が毎月2回あります。近所のそば屋が朝から子どもたちのために作ってくれ、一味違うこのうどんは子どもたちに人気があります。
- ・ 3月は卒園児のアンコールメニュー月間で、給食もおやつも、5歳児の希望メニューが献立になります。
- ・ 献立は春には菜の花、筍、夏にはそら豆、ゴーヤなどと、四季の食材を取り入れています。また、ご飯は胚芽米、食材は国産のものを使用して安全に配慮しています。
- ・ 残食を把握し、また、給食日誌には検食者の意見、調理担当者の意見を書きこんでいます。それを給食会議にも活かし、献立や調理の工夫に反映させています。
- ・ 年に8回ほど行う会食会には、栄養士、調理師も子どもたちとともに食し、食べている様子を見ています。そして献立や調理の工夫にも反映させています。
- ・ 給食だよりには、子どもたちに人気のあるメニューやおすすめメニューのレシピなどを載せて、保護者に伝えています。また、保護者懇談会で年1回試食してもらい、機会を作り、情報交換をしています。「家では食べないのに、なぜ園では食べるのか」という保護者の質問に答えて、園での調理の秘訣（例えば、カレーの甘さは野菜から出ている等）を教えたりしています。
- ・ 午睡は、午前の活動が活発なためか、みんなよく眠っていました。5歳児は1月末頃から、無理のない程度に午睡をなくしていく予定です。
- ・ トイレトレーニングは、個別の排泄リズムに配慮し、オムツをはずすことよりも、尿をためられるようになることを重視しています。幼児も一斉にトイレに行くことはなく、子どもが自分で判断して行っています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [健康管理]



- ・ 一人ひとりの個別健康台帳、児童票があり、既往歴その他の情報を記録し、関係の職員に周知しています。日々の健康管理については、送迎時にその日の様子や健康状態を、保護者と直接伝え合います。乳児の場合、連絡ノートでも詳しく伝え合っています。
- ・ 健康台帳には健康診断・歯科健診の結果を記録し、保護者にも伝えていきます。また、幼児は年1回、尿検査も行っています。
- ・ 食後の歯磨きは、2歳児は保育士が仕上げをし、幼児は自分でやっています。年に1回、歯科大学生が10人以上来て、歯磨き指導を行っています。乳児については、一人ひとりにブラッシングをし、3、4歳児については3~4人を一緒にブラッシング指導をし、5歳児には赤い検査液も使って、子ども自身が意識を持つように指導しています。
- ・ 感染症マニュアルがあり、入園時に保護者に配布するしおりには、乳幼児のかかりやすい感染症の解説と、登園停止期間の説明を明記しています。入園時にも説明しています。
- ・ 保育中に感染症が発症した場合、または疑わしい場合は、すみやかに隔離し、保護者に連絡しています。また、各クラスの保護者向けお知らせボードに掲示をしています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [衛生管理]



- ・ 衛生管理マニュアルは、職員会議で現状に即した見直しをしています。
- ・ 朝夕勤務の非常勤職員とも連携して、マニュアルにしたがって清掃をしています。
- ・ 保育士のエプロンは、通常用と給食時用とを分けています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・ 耐震対策として、全室に耐震ゲルを入れています。また、保育室の棚は前方両隅にパッキンが入れられ、壁に密着するように工夫されています。
- ・ 緊急連絡体制は、保護者へは、保護者会が作った連絡網があります。また、救急機関・消防署・警察などの一覧表もあり、ともに事務室に掲示してあります。
- ・ かすり傷程度の小さいケガは保護者には口頭で伝え、日誌に記録しています。園で処置したケガは必ず担任がその子どもが降園するまで待ち、保護者に直接説明するようにしています。頭のケガや引っかき傷のようなあとに残るケガなど、気になるものは保護者の了解を得て受診し、その結果を保護者に報告しています。
- ・ ヒヤリハットシートがあり、ケガや事故は必ずその日のうちに会議で検討しています。
- ・ 出入り口の施錠方法を工夫し、園の外から見るとわからないようになっていますが、侵入者があった場合には、合言葉があり、装置を作動させると、パトライトが点滅し、近隣に大音響が響くようになっていきます。この点についても、ふだんから地域の人たちの協力が得られるようにしています。

- 3 人権の尊重





- ・ 保育士は落ち着いた丁寧な言葉遣いをしています。また、子どもの気持ちを受け止め、言葉で自分の気持ち表現できるように配慮し、子どもの話をよく聞いています。
- ・ 事務室は子どもに威圧感を与えずに1対1で話し合える場所であり、また、子どものプライバシーを守れる場所、心理的な避難場所ともなっています。必要に応じて園長、副園長が対応する体制になっています。
- ・ 守秘義務の意義や目的について、園内研修として必要書類の読みあわせをし、具体的な事例を話し合います。また、園児の写真撮影、掲示、販売に関しては、保護者に承諾書を書いてもらっています。
- ・ 虐待のケースについては、関係機関と密接な連携をし、詳細な個別記録もとっています。
- ・ 性差に関しては、遊び、順番、グループ分けなどでも、性別による区別はしていません

- 4 保護者との交流・連携






- ・ 園の目標については、入園説明会や懇談会で保護者に伝えていきます。また、園だより、クラスだよりでも、園の方針を年齢にそって具体的に伝えていきます。
- ・ 「パワーアッププロジェクト」などの場で、0歳児保育の開始をめぐって、保護者と本音で話し合う機会が多くあり、その結果、園の基本方針なども具体的によく理解されるようになってきました。（「パワーアッププロジェクト」とは、園と保護者会役員、保護者有志で構成されているもので、必要に応じて問題を具体的に検討しています。）
- ・ クラス懇談会は1～4歳児は年3回、5歳児は4回行っています。懇談会のレジュメをつくり、クラスだよりに詳しい報告を載せて、出席できなかった保護者にも様子を知らせています。
- ・ 個人面談は各クラスとも、年1回行ない、その他常時相談、面談に応じています。
- ・ 相談は、必要に応じて担任だけではなく園長も加わって対応し、解決しています。
- ・ 毎日の子どもたちの様子については、各クラスの保護者用のお知らせボードに保育日誌を掲示し、読んだ保護者にはサインをしてもらっています。また、年間行事のうち、運動会とお楽しみ会の案内状は、プログラムだけでなく、各年齢の「みどころ」を書いた小冊子を添え、普段の園生活の様子が伝わるように工夫しています。
- ・ 保護者会には園から副園長を含めた2名が参加し、また、保護者会主催だった行事も園との共催を呼びかけて、連携を図っています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭開放や地域のケアプラザとの交流、地域の子育てサークルと区・ケアプラザ・町会長が集まる意見交換会への参加、区の子育て支援会議などを通じて、園に対する要望等を把握しています。 ・ 地域からの相談日は毎週水曜日と決めています。園庭開放のときにも、おむつや歯のことなどの相談を受けています。 ・ 鶴見区内の保育園が連携して行う区域の地域育児支援イベントや、ブロック別イベントの実施に積極的に関わっています。 ・ 地域の子育てを支援するために、多くの事業を行っています。園庭開放、元気っこ広場（毎月第3土曜日に、地域の子育て支援グループが実施していて、園として園庭と乳児室を開放し、職員は手遊びの紹介などで支援しています）、交流保育、誕生会への招待、身長体重の測定、1日2名の一時保育を実施しています。 ・ 地域住民に向けて、年2回育児講座を開き、今年度5月にはわらべ歌、11月には「子どもの環境で気をつけたいこと」のテーマで実施しました。 ・ 地域の小中学校の保護者に向けた「教育懇談会」で園長が講演し、地域ケアプラザの地域子育て講座で、園の栄養士が野菜カレーを教えて好評でした。 ・ 職員が、法人が運営している他園の休日保育の一部を担当して、ニーズに応えています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の行事のお知らせはケアプラザに置いてもらったり、元気っこ広場や園庭開放のときに配布したり、散歩のときにはチラシを持って行き、公園などで配布をしたりしています。 ・ 外部の関係機関との連絡担当は園長で、区役所・児童相談所とは日常的に連携が取れていて、必要なときには迅速できめの細かい対応を行っています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園は、運動会、夏祭り、餅つき、世代間交流等に地域の人を招待しています。 ・ 園の行事のときに、町内会から用具やテントを借りるなどの協力を得ています。地域の子育て支援団体には毎月園庭と乳児室を貸して、職員も遊びの紹介などの協力をしています。 ・ 5歳児が2月に学校訪問をして、小学生と交流をしています。また、園長が小中学校の保護者の集まりに講師として呼ばれて、講演を行うこともあります。 ・ 散歩のとき、お店や通りがかりの人とも挨拶や会話を交わし、温かい交流が日常的に行われています。 ・ 毎月3、4、5歳児クラスが交代でケアプラザを訪問し、乳児の親子と交流をしたり、高齢者のデイサービスに入って交流をしたりしています。訪問調査の日も4歳児が出かけ、施設側も待っていました。子どもたちは、そばに寄ってきた赤ちゃんの頭をなでたり、園で折ってきた折り紙を手渡したり、歌や踊りを見せ、高齢者とは一緒に歌ったり声をかけてもらったりして、とてもよい交流をしていました。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園のパンフレットがあり、区役所からも区内の全保育園を紹介したパンフレットが配られて、情報提供がされています。 ・ 利用希望者にはパンフレットを基に説明し、見学ができることも伝えています。見学にきた親子は、状況が許せば、子どもたちと一緒に保育室や園庭で遊ぶこともできます。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くのボランティアを受け入れ、特に昨年夏の中高生のボランティアは延べ80名と多く、体験ノートに感謝や喜びの言葉が、感想として記載されています。 ・ 畑の指導や木の剪定、掃除などをしてくれるボランティア、布おもちゃや衣装を作ってくれるボランティアの2人にも支えられています。 ・ 実習生の受け入れにあたっては、園長が個別に面接を行い、実習生の希望や目的にあわせると同時に、園として必要と考える実習も組み入れたプログラムを作成しています。 ・ 実習が終わったときに反省会をもち、実習生が職員と意見交換を行っています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年、職員個人が自己目標アンケートに記入をし、園長・副園長が面接の上で達成度を確認しています。 ・ 園外の研修には、事情が許す限りできるだけ参加するようにしています。内容も職員間で共有できるよう、その都度職員会議やミーティングで報告をし、資料の公開方法に工夫をこらすなどしています。 ・ 研修の成果を活かすため、研修報告書の様式を統一して職員間ではらつきのないようにしています。内容についても会議などを通じて、周知するようにしています。また、研修資料が大量な場合は、休憩室に置いて全員で閲覧するようにしています。 ・ 昨年は保育の充実を目指した単発の研修や救急法の研修、今年は保育内容についての継続的な研修と、年度ごとに重点目標を立て、園の運営に反映するようにしています。障がい児が多いため、特に障がい児保育の研修には積極的に参加し、常に保育に活かしています。 ・ 非常勤職員については、正職員とのコミュニケーションがうまくいっているため、その中で連絡や相互の学びあいが行われています。今後は非常勤職員が研修報告を聞いたり、研修に参加したりするなどの資質向上のための取り組みが望まれます。 ・ 人材育成計画は、現在はありませんが、法人として取り組む必要性を認識して、研修の定期的な実施など検討を進めています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日ごろから保育士同士のコミュニケーションが活発で、それぞれスキルアップに取り組んでいるほか、月2回の職員会議などで話し合いをして、保育内容の見直しを行っています。 ・ 食育に関して、栄養士・調理師と担当がそれぞれの立場で提案しあうなど、積極的に工夫や改善をし、それを職員会議で報告しています。 ・ 外部からの指導に関しては、体育遊びなど、年間を通じて講師を迎え、体力づくりだけでなく保育に関してもアドバイスをもらっています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散歩時の服装や園児同士のトラブルやケガへの対処など、クラス内の判断は担当が責任を持って行っています。 ・ 日常のミーティングなどで、職員の活発な意見交換や改善の提案などが行われています。 ・ 年末の個別面談で、園長・副園長が職員の満足度や要望を把握しています。 ・ 職員の経験・能力や習熟度に応じた期待水準は、明文化していません。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・法・規範・倫理などに関しては、就業規則や個人情報マニュアルなどに分散して記載しており、周知をしています。 ・ゴミの減量化・リサイクルについては、各保育室に分別用のゴミ箱を設置し、町会のダンボール紙回収にも協力するなどしています。 ・省エネルギーに関しては、各職員がこまめに電気を消すなど取り組んでいます。また、緑化の推進に関しては、土が多く樹木も多い環境の中で、緑の協会の会員になり、花の栽培などを行っています。 ・環境配慮に関しては、公立当時のものを引き継ぎ、事務室の壁に環境方針を掲示し、取り組んでいます。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・園目標については玄関の入口や各教室などに掲示をしていて、職員採用時の面接の際にも各人に周知をしています。職員会議でもたびたび取り上げています。 ・0歳児保育の開始やそれに伴う園の増築計画など重要な意思決定に関しては、職員には職員会議で説明し、意見を聞くようにしています。 ・公立からの移行時の条件として、移管後4年間は運営上の変更部分について保護者の同意が必要となっています。そのために重要事項についても、保護者会、三者協議会、パワーアッププロジェクトなどで十分に説明をし、話し合いをしています。 ・副園長が個々の業務状況を把握できる仕組みがあって、職員の能力や経験にあわせた的確な助言や指導を行っています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な情報に関しては、年度初めの職員会議で理事長から説明があるほか、必要に応じて月に数回程度、理事長、園長、副園長で話し合いをし、必要なことは職員会議を通じて伝えていきます。 ・一時保育や0歳児保育などの計画について、浮上した段階から職員との話し合いの中で話題にし、意見をまとめています。 ・中長期的な事業の計画は法人で検討中です。次代の組織運営に備えては、0歳児の受け入れのための園の増築を検討するなど、積極的に検討・推進しています。 ・外部の専門家としては、法人と関わりのある税理士・弁護士がいて、理事会に出席をしてもらい、アドバイスを受ける体制になっています。また、今回の増築計画に関しては、一級建築士からアドバイスをもらっています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2007年9月18日～10月8日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関宛に無記名で返送。
- 3、回収率 72.9%（59枚配付、43枚回収）
- 4、所属クラス 1歳児クラス...6人、2歳児クラス...10人、3歳児クラス...6人、
4歳児クラス...11人、5歳児クラス...10人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

文中の「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答を合わせたもので、「不満足」は、「どちらかといえば不満」「不満」の回答を合わせたものです。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

70%以上の保護者が、保育園の保育目標や保育方針を知っていると答えています。
知っているとした保護者は、全員が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。

【問2】入園時の状況について

「面接など、子どもの様子や生育歴を聞く対応」「費用やきまりに関する説明」は、80%以上の満足度でした。「園の目標・方針についての説明」「園での一日の過ごし方についての説明」は“特になかった”という声がありました。昨年度に民間移管されたため、その前後での違いもあるようです。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」「保護者の要望が活かされているか」のどちらの設問とも、90%近くの満足度でした。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」についての設問では、「クラスの活動や遊び（お子さんが満足しているか）」「遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係」の各設問で90%以上の満足度でした。他の項目も全体的に満足度が高く80%以上となっています。自由意見として、体育遊びなど健康づくりへの取り組みや、異年齢のつながりに満足の声が多い一方、“よくわからない”との声も少数ながらありました。

「生活」については、「給食を楽しんでいるか」が満足度100%、「給食の献立内容」「昼寝や休憩が子どもの状況に応じて対応されているか」が90%以上の満足度でした。一方で、ケガに関する連絡等に不満の声が多く、25%程度ありました。

【問5】快適さや安全対策について

「施設設備」の設問に満足度50%程度に対し、40%近くの不満があります。建物の古さや今後定員を増やす計画があることなどが心配されていますが、“空気清浄機の設置”や“内装を新しく”などの提案もあります。「不審者侵入に対する備え」では満足度・不満足とも50%弱です。“誰でも入れるのは不安”という声が強く、早急な安全対策を求める声があります。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「懇談会や個別面談など話し合いの機会」「園の行事の開催日や時間帯への配慮」「保護者からの相談事への対応」は90%以上の満足度でしたが、「送り迎えの際の子どもに関する説明」について、30%近くの不満がありました。“朝早く、夜遅いと担任の先生に会えない”“忙しそうで声がかけれないので、先生の

方から声をかけてほしい”などの意見があります。“安心して仕事ができるように、最大限サポートしてもらっていると感じる”という声もあります。

【問7】職員への対応について

「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」の満足度が100%、「子どもが大切にされているか」も90%を超える満足度でした。保育士によって対応が異なることへの不満の声がいくつか見られます。一方、“アレルギーや障がいのある子どもへ丁寧に対応してくれている”や、“子どもが園生活を楽しんでいることが何より”という感謝の声も見られます。

【問8】保育園を総合的に評価すると

満足度は約86%でした。

“移管後の不安や戸惑いがあったが慣れてきた”“安心して預けられる”“先生も頑張っているのでお互いに園をよくしたい”といった声があります。

まとめ

- ◇ 全体に満足度の高い評価になっている中で、問7の「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」「給食を楽しんでいるか」では、100%の満足回答が寄せられました。
- ◇ 問4の「ケガに関する保護者への説明やその後の対応」には25%程度の保護者が不満を示しています。また、問6の「送り迎えの際の子どもの様子に関する説明」に対しても、30%近くの不満がありましたので、保育中の子ども様子を保護者に伝える方法についての検討が望まれます。さらに、問5の「不審者侵入に対する備え」では満足が48.8%に対し46.5%の保護者から不満足な回答が寄せられています。早急に保護者会と話し合うなどをして、保護者の不安を取り除くことが望まれます

利用者（園児）家族アンケート集計結果

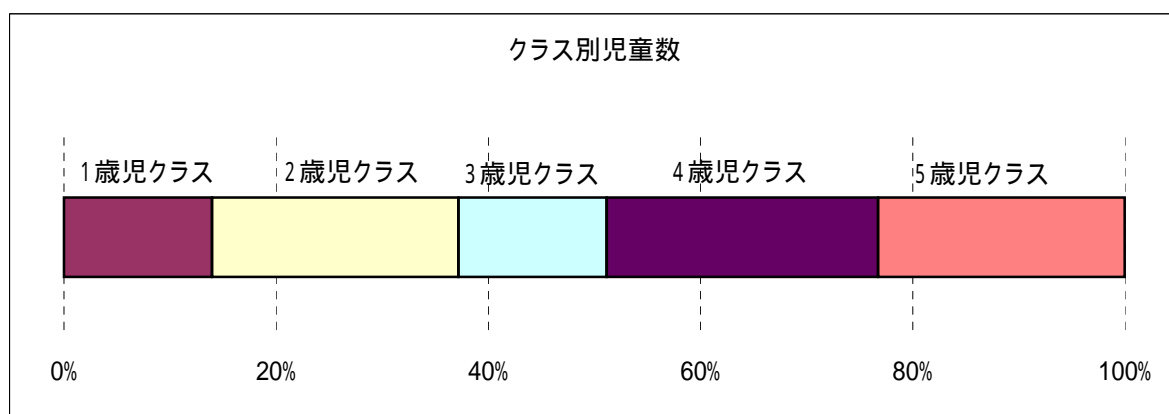
実施期間： 2007年 9月18日～10月8日

回収率： 72.9% （回収43枚 / 配布59枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
43	0	6	10	6	11	10	0

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスで記入



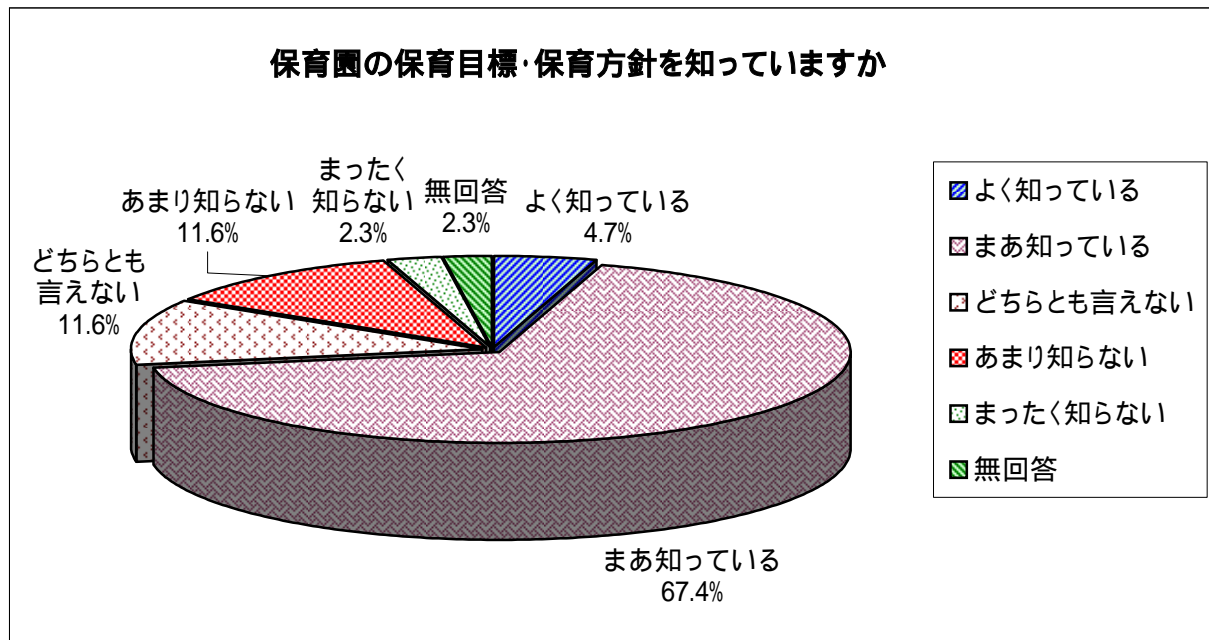
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	4.7	67.4	11.6	11.6	2.3	2.3	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

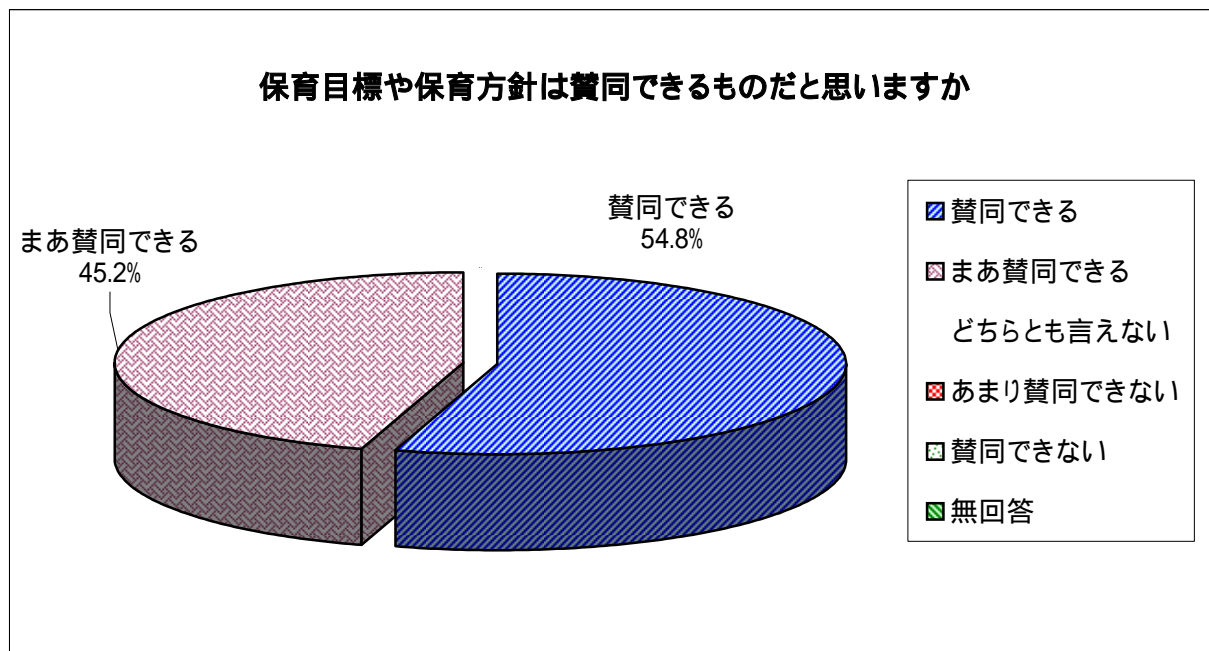


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	54.8	45.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

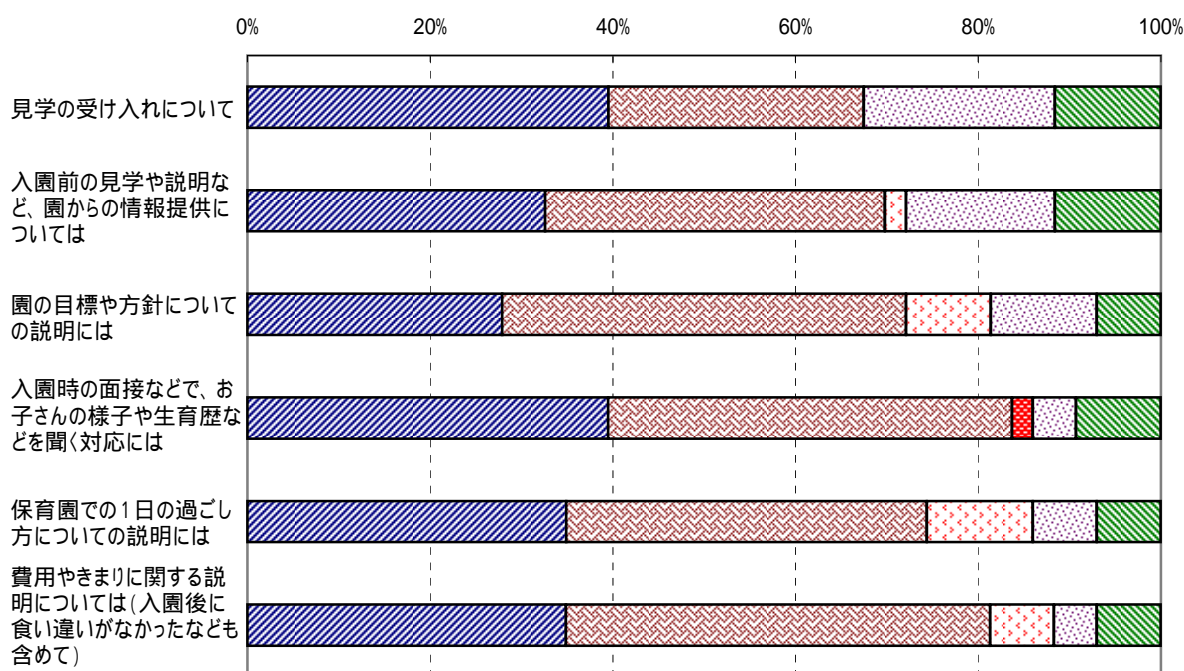
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	39.5	27.9	0.0	0.0	20.9	11.6	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	32.6	37.2	2.3	0.0	16.3	11.6	100
園の目標や方針についての説明には	27.9	44.2	9.3	0.0	11.6	7.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	39.5	44.2	0.0	2.3	4.7	9.3	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	34.9	39.5	11.6	0.0	7.0	7.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったなども含めて)	34.9	46.5	7.0	0.0	4.7	7.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



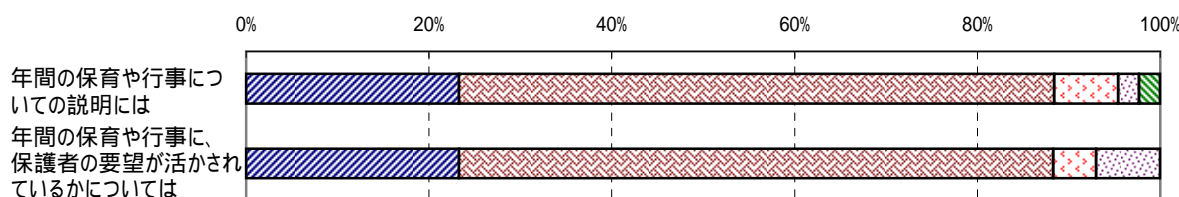
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	23.3	65.1	7.0	0.0	2.3	2.3	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	23.3	65.1	4.7	0.0	7.0	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問4 日常の保育内容について

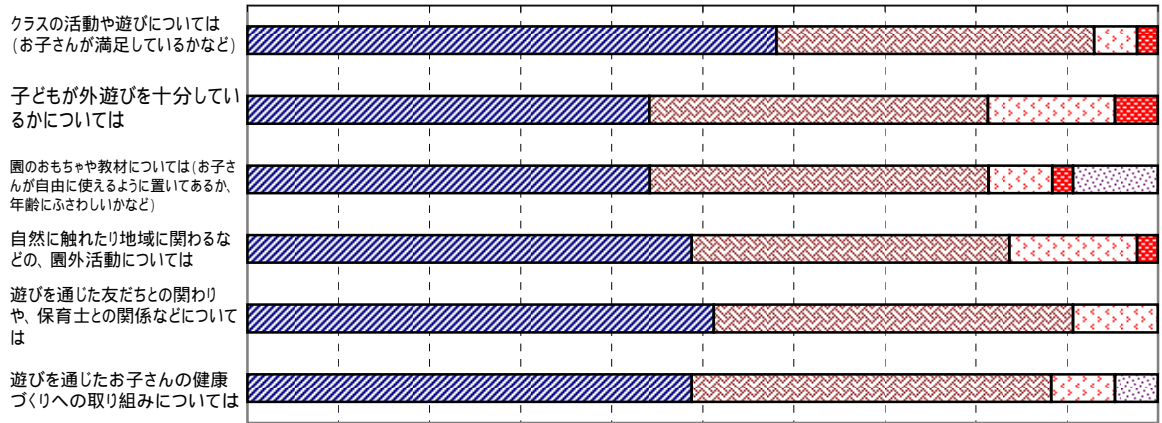
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	58.1	34.9	4.7	2.3	0.0	0.0	100
子どもが外遊びを十分しているかについては	44.2	37.2	14.0	4.7	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	44.2	37.2	7.0	2.3	9.3	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	48.8	34.9	14.0	2.3	0.0	0.0	100
遊びを通じた友達との関わりや、保育士との関係などについては	51.2	39.5	9.3	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	48.8	39.5	7.0	0.0	4.7	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



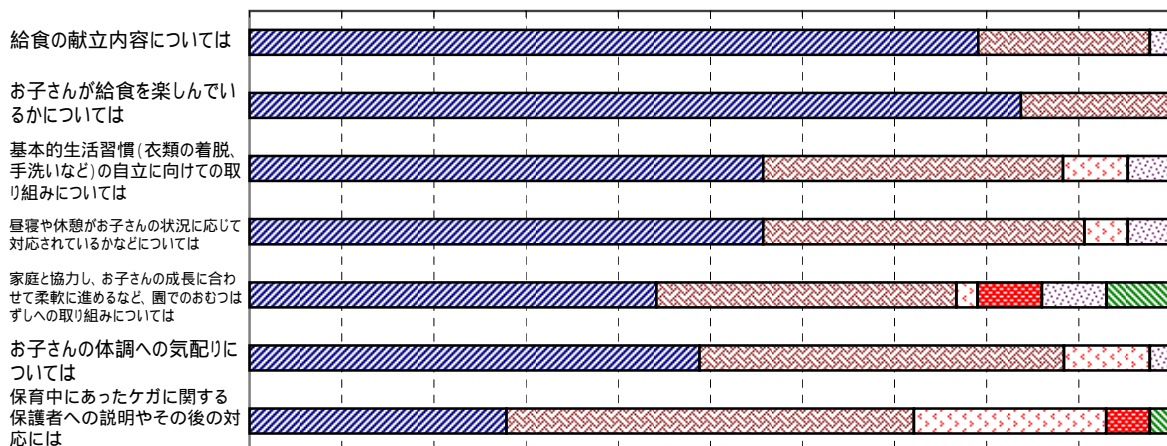
(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	79.1	18.6	0.0	0.0	2.3	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	83.7	16.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	55.8	32.6	7.0	0.0	4.7	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	55.8	34.9	4.7	0.0	4.7	0.0	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	44.2	32.6	2.3	7.0	7.0	7.0	100
お子さんの体調への気配りについては	48.8	39.5	9.3	0.0	2.3	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	27.9	44.2	20.9	4.7	0.0	2.3	100

日常の保育内容「生活」について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



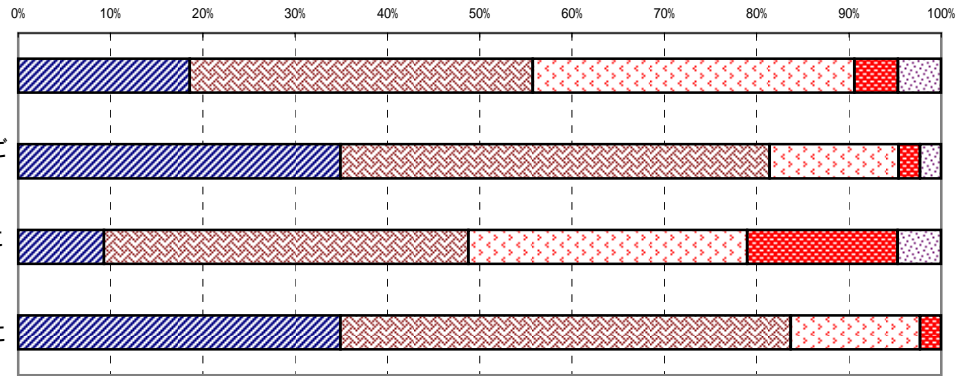
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	18.6	37.2	34.9	4.7	4.7	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	34.9	46.5	14.0	2.3	2.3	0.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	9.3	39.5	30.2	16.3	4.7	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	34.9	48.8	14.0	2.3	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



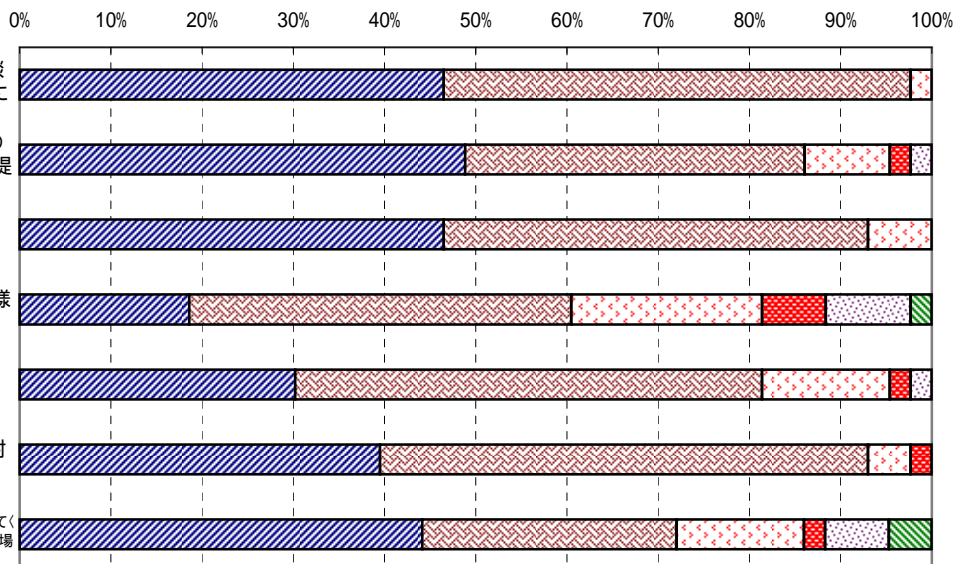
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	46.5	51.2	2.3	0.0	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	48.8	37.2	9.3	2.3	2.3	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	46.5	46.5	7.0	0.0	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	18.6	41.9	20.9	7.0	9.3	2.3	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	30.2	51.2	14.0	2.3	2.3	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	39.5	53.5	4.7	2.3	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	44.2	27.9	14.0	2.3	7.0	4.7	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



問7 職員の対応について

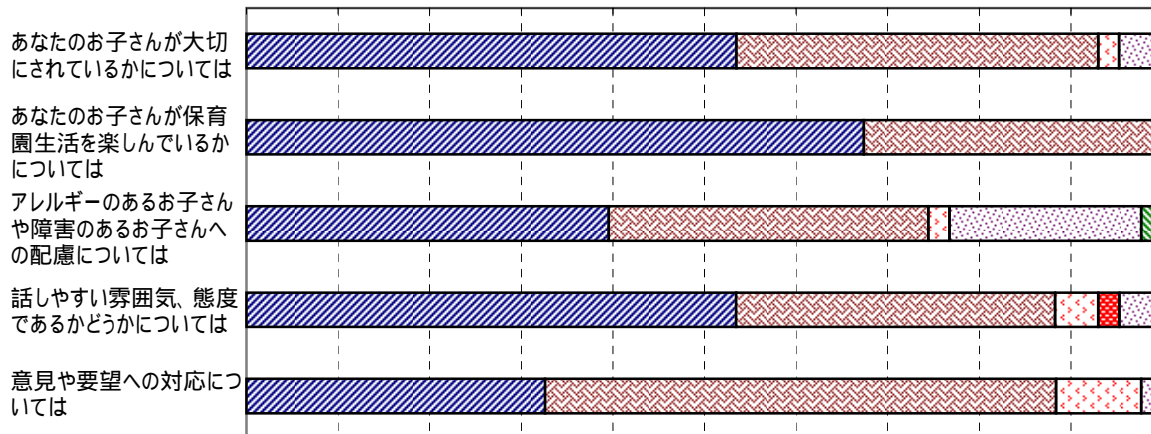
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	53.5	39.5	2.3	0.0	4.7	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	67.4	32.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	39.5	34.9	2.3	0.0	20.9	2.3	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	53.5	34.9	4.7	2.3	4.7	0.0	100
意見や要望への対応については	32.6	55.8	9.3	0.0	2.3	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

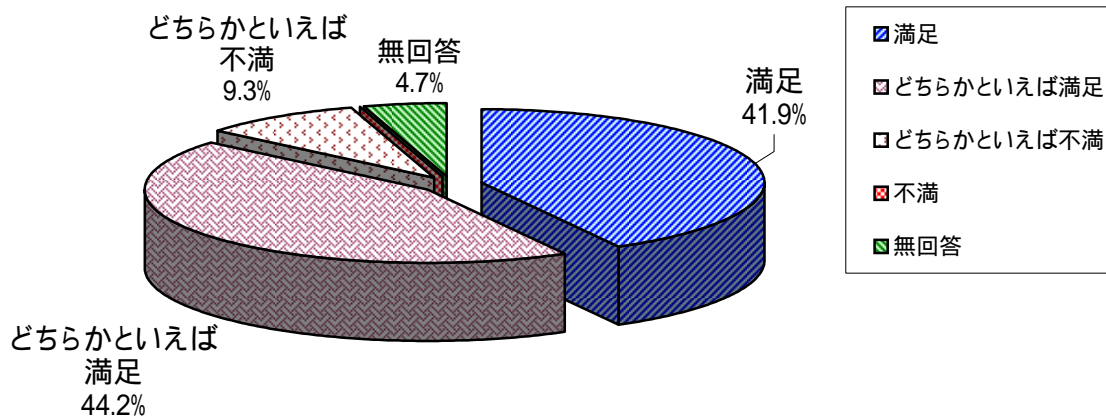


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	41.9	44.2	9.3	0.0	4.7	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 11月29日（木）9:30～12:50 12月5日（水）8:00～12:50

上記の時間帯以外も、夕方までの間に適宜実施

観察中、5歳以上の園児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを実施

1歳児クラス

月齢の低い子ども4人、高い子ども4人に、それぞれ担任保育士が1人ずついますが、遊ぶときは一緒です。午前中はサブの保育士がいて、保育の流れがスムーズにいくように、片付けや準備を手伝っていました。

朝、子どもたちは部屋いっぱいに思い思い遊んでいました。保育士に抱かれて「お舟はギッチラコ」をしてもらっている子ども、小さいテーブルにままごとの道具を並べている子どもたち、ダンボールに布を貼った箱にぬいぐるみなどのおもちゃを入れて、ところ狭しと押し歩く子どもたち、また、自分がその中に入って、他の子どもとおもちゃのやりとりをする子どもたち、とさまざまです。外遊びは園庭でままごとが中心でした。子ども同士でもいくらやりとりがありますが、やりとりを楽しむというよりは、一緒にいるのが楽しい、という感じです。保育士が間に入るとやりとりがつながります。園庭を走り回る子や、2歳児用にセットされた巧技台に挑戦する子もいました。みんなで一緒に活動としては、食事前、保育士がみんなを集めて絵本を読んだりペープサートをしたりしていて、子どもたちは時に歓声をあげていました。

けんかについては、解決に保育士の助けが必要です。おもちゃの取り合いになると、保育士が来てもう1つ同じおもちゃを持ってきて解決することもあります。また、相手の子どもに手が出ると「ぶったら痛いよね」と、手を出した子どもにおだやかに声をかけ、おさまっていました。

身の回りのことを自分でしよう、という気持ちが出ています。園庭に行くときには、自分から靴下を履いてコートを着ようとしています。担任は、「ちゃん、できた？」「手伝いましょうか？」などと声をかけます。言葉は静かで丁寧です。食事の前に、月齢の低いグループは部屋でパンツを取り替えてもらいますが、月齢の高いグループはトイレに行き、出ない子どもも便器に座って見ていました。

食事は一斉にではなく、準備のできた子どもからスプーンで食べ始めます。保育士は一人ひとりに対応します。食べ終わってなお物欲しげにしている子どもには、「おかわりください、って言ってね」と、言葉での意思表示を勧め、ワカメ和えが嫌いで食べない子どもには、量を減らして、「これだけ食べてね」と口に入れてあげ、食べると「カッコイイ！」と褒め、食べ物で遊び始めた子どもには、「遊ぶなら終わりにしてください」と注意をしていました。

子どもたちは自分からエプロンとお手ふきをしまい、自分で着替えを始めます。手伝ってもらいますが、自分でやろうとする気持ちが目立ちます。終わった子どもから自分で布団に入り、明るい室内で次々に眠っていきました。保育士は子どもたちの間に座って見守っていました。

2歳児クラス

1歳児クラスと同じように、生活面では個々に担当保育士が決まっています。2歳児でも、子どもと保育士の1対1の信頼関係を大切にしています。そして子どもが、自分の意思を言葉で表すように支援しています。

自由に遊ぶ時間はままごとが主です。ままごとコーナーには、手作りのキッチンセットや、牛乳パックで作った布でくるんだ椅子や、小さいテーブルもあります。子ども同士の関係ができてきて、子ども同士と一緒に話し、遊ぶ姿が多く、保育士の声は小さく静かです。園庭でも何人かの子どもで好きな遊びを見つけます。2歳児用にセットした巧技台や砂場で遊ぶ子どもたち、園庭の植え込みの裏の狭い所をぐるぐる歩いて、保育士とパーッと顔を合わせて楽しむ子どもたち、またすべり台の平らな所に砂を持ち込んで、棒でぐるぐる

跡をつけておもしろがったりする子どもたち、とさまざまです。体を動かして遊んだ後は、部屋でみんな一緒に保育士と絵本を楽しみました。読んでもらいながら、「なんでなの？」などと質問もいろいろ出てきます。一人でままごとに熱中している子どもや時々歩きまわる子どももいますが、集団に入るように強いられることはありません。歩きながらわらべ歌を口ずさむ子どももいます。絵本やわらべ歌は、言葉の増えていくこの時期に、子どもたちの心と思いの中に、栄養分として自然に入って行くようです。

けんかの解決は保育士の支援が必要です。保育士は、子ども同士が相手への要求を言葉で言えるように、「なんていうんだっけ？」と問いかけます。自分の要求や気持ちを、力づくで取り上げたり引っかいたりして表すのではなく、言葉で伝えるように、そして相手の気持ちを分かるように、支援しています。

園庭に行くときには、ほとんど自分で身支度を準備します。上着を着て、帽子をかぶり、靴下、靴を履きます。トイレへは何人かで保育士と一緒にいきます。トイレの中にはもう1人の保育士がいて、手伝ってくれます。低いベンチが置いてあり、そこに座って着替えられるようになっています。全部自分でできる子どももいますが、一生懸命にボタンかけに挑戦する子ども、できないところを保育士に頼みにいく子ども、最初からやってもらう子ども、といろいろです。

食事は2つのグループに分かれ、保育士は魚を食べやすく小さくしたり、残りを集めてあげたり、口に運んであげたり、おかわりしたい子どもにはついあげたりします。食べきれなかったものは強いることなく、片付けます。食べ終わると1人ずつ歯磨きをし、仕上げを保育士がしています。その後自分から着替え始め、カーテンを閉めると各自で自分の布団に入り、保育士はとんとんと背中をたたいたりしながら、見守っていました。

3歳児クラス

3歳児クラスも2グループに分かれています。担任の保育士は1人ですが、食事時までサブの保育士がいます。3歳児クラスは、みんなで一緒に活動する時間が多くなっています。ルールのある遊びもします。

朝はグループごとに机を囲んで自分の椅子に座り、短い集会をします。また折り紙とのかみでわっかを作り、それをどれだけつなげるかを競ったりします。手先を使う遊びを多く取り入れているようです。ジャンケン遊びや色と果物当てクイズなど、ルールのある遊びも楽しめます。体育遊びでも簡単なルールを学びます。体育の先生の言葉の指示で動き、ルールを守らないと友だちとぶつかって交通事故になってしまうことなどを体験します。また「信号機遊び」では、信号機の赤・青を見て動いたり止まったりしますが、子どもたちも順に信号機の役割をして遊んだりしました。自由に遊ぶ時間には、ままごとやブロックが人気です。部屋には子どもの高さに合わせた流し台、調理台など手作りの台所セットがあり、ままごとコーナーになっています。一緒に遊ぶ友だちは同じグループの子どもが多いようですが、保育士にままごとなどに入ってもらおうと子どもが求めることも多いです。園庭では異年齢の子どもとの交流もあります。泣いている2歳児の子どもに「泣かないで、何て言うの？」と促したりする子どももいます。いつも自分たちが保育士に言われていることなのでしょう。

小さいけんかは子どもたちで解決することも多いですが、解決しないものは保育士が間に入ります。2人がよくよく話し合うように支援をします。そして相手の気持ちが分かるように指導していました。

着替えはほとんど自分でできますが、難しい部分は手伝ってもらいます。食事の後の片付けは、みんな自分のことは自分でやります。手洗い、うがい、テーブルふきも自分でやりますが、保育士がきちっとできるように指導していました。午睡のためのござ敷きは子どもたちも手伝っていました。

食事は、どれくらいの量を食べられるかを保育士が子どもに聞きながら、一人ひとりによそってあげていました。準備のできたグループから食べ始めます。はしを使う子ども、スプーンを使う子ども、両方を使う子どもがいます。おかわりをする子どもが多いです。こぼしたときにはまず自分でふきます。食べ終わった子どもから歯を磨き、着替えます。準備のできた子どもは絵本、パズル、積み木などで遊んでいました。トイレは各自で行っていました。

4 歳児クラス

4 歳児クラスでは自分でよく考えることを保育士が支援し、それとともに子どもの自主性に任せる部分が多くなります。当番もいます。また数字を意識しているようで、遊びの中で数字の読み書きをし、部屋の時計には、次の行動の時間に赤いマークが付けられています。保育士は「長い針が赤い印のところにきたらお散歩に行きます」などと声をかけます。15 人の子どもに担任は 1 人ですが、サブの保育士がいるときもあります。

朝の集会では当番が前に出ます。みんなで歌を歌います。その日の予定をカードで見せると、「体育遊びの後はお散歩に行きたい」などと、子どもたちの発言も活発です。体育遊びでは、言葉の指示をよく考え、理解して動くことを学びます。積み木を足の間を 8 の字にくぐらせる、後ろ四つんばいでお腹に積み木を乗せて動くなどです。散歩の際にも、保育士は散歩のコース、見所、目的、注意することなどをよく考えるように指導します。園庭では「サメ軍団」を 4 歳児にあったルールに変えて遊んでいました。部屋で自由に遊ぶ時間には、いくつかのグループで遊んでいました。保育士を囲んで銀紙で硬貨を作っているグループ、テーブルで粘土のウィンナー作りをしている数人、ブロックで遊ぶグループ、階段付きの台を使って遊ぶ子どもたち、とそれぞれです。

けんかやトラブルは多いですが、子ども同士で解決する光景も見られ、また、泣いている子どものところに何人が集まってきて、慰めたり心配したりする姿もあります。2 人の子どもがブロックを取り合って興奮し、子どもの仲裁でも収まらなかったときは、保育士が呼ばれました。また、保育士がみんなで考えるように問いかける場面もあれば、一人ひとりに対応する場合もありました。

手洗い、うがい、着替え、トイレなどは、保育士の指示がなくても、みんな自分でやっています。食事前の薬を保育士の見守りの中で、自分で飲んでいる子どももいました。食事は、ごはんは自分で適量をよそい、おつゆと副菜は自分で量を決めて保育士によそってもらい、こぼさないように慎重に自分でテーブルまで持って行きます。当番が出て一斉に「いただきます」をしますが、一斉の「ごちそうさま」はありません。それぞれ自分のペースで食べ、おかわりも自分でよそってきます。終わった子どもから食器を片付け、歯を磨き、着替えてから、布団の上で絵本など見ますが、歯を磨かずに着替えもせずに布団に上がる子どももいて、注意されていました。

5 歳児クラス

5 歳児クラスでは保育士の言葉かけは少なくなり、子どもたちはかなり自主的に過ごしています。遊びの素材や教材は引き出しに入れてあり、子どもたちは自由に出し入れをしています。自分の描いた絵を壁に貼る子どももいます。

朝は 1 人、また 1 人と子どもが増えてきて、遊びのグループができます。机を囲んで何人かが黙々とビーズはめに集中しています。細かいビーズを台にはめ、でき上がると動物や花になるので達成感があるようです。自慢げに他の子どもや保育士に見せに行きます。談笑しながら絵を描いたり、定規を使って模様を工夫したりしているグループもあり、ブロックの共同作業をするグループもあります。一人で、ままごとコーナーで熱中している子どももいました。すっかり遊びこんだ頃、自然に片付けムードになっていきます。保育士がお茶を持ってきて机に置くと、気づいた子どもは次々に自分のコップを持ってきて、お茶をついで飲み、そして自分の椅子に座ります。片付けないでふざけている子どもには保育士が声をかけ、きちんと片付けるかを見守ります。みんなが座ると朝の集会になり、その日の予定が始まります。その日は体育遊びでした。終わると、子どもたちが「まだ 11 時だよ」と言い、そのまま外で遊ぶことになりました。保育士が竹馬などを出し、子どもたちはそれぞれ自由に遊びます。

けんかはもちろんあるでしょうが、その日は見られませんでした。このクラスには障がいのある子どもが何人かいますが、保育士は細かい配慮はしても特別扱いはしません。子どもたちもその子どもの特性を認め、しかし区別はせずになじんでいます。1 人の子どもは食事のとき「いただきます」を先導する係りになっていました。

食事は各自ごはんとおつゆを自分でよそい、副菜は保育者によそってもらって、みんながそろそろまで楽しそうに話したりしています。ごはんは胚芽米でおひつに入っていて、おかわりをする子どもが多く、全部なくなりました。めいめい昼寝の準備をし、保育士が部屋のカーテンを閉めるまで、布団で静かに絵本を見ていました。

まとめ

園目標である「自分で考え行動できる子」が育っています。

年齢と発達に応じて子どもたちは自主性を大切にされ、自分で考えて行動するように配慮されています。食事、着替えなどの生活習慣、そして遊びやけんかにおいてもその成果が感じられます。また、子どもたちは保育士の静かな言葉かけによく耳を傾けていて、信頼関係を感じさせられます。子どもたちは自分の気持ちが受け入れられているからでしょう、他の子どもたちを思いやる気持ちも育っています。

事業者意見

第三者評価を受けて

民間移管1年が過ぎたばかりの状況で第三者評価を受けようと決意したのは、真剣に取り組んで築きつつある現状を、あるがまま評価を受け、第三者の見方を組み込み、3年目の園運営に新鮮な見方を加えて充実させる機会にするためでした。

当園では、法人の理念に基づき保護者とのコミュニケーションを大切に、民間移管園の不安を一掃し、信頼関係を築くこと、そのために保護者が「知りたいこと」には敏感に対応し、子育てに関する漠然とした不安や曖昧な理屈には、専門的知識を解りやすく話し、早期対応に心掛けながら子育て観を共有してきました。

職員には、「気づいた人が、まず提案する」という方針で、「この程度のこと」と思う「この程度」が共有化されていない段階では、「気になったこと」「違うと感じたこと」を共通の理解とするために、報告や、問題提起に心掛けました。トラブルを未然に防ぐ、最小限に止めることの大切さを地震にたとえ、“予知情報の段階で対策を練る”取り組みが、一人ひとりの職員の意識の向上と姿勢となり、日々成長してきた点が評価され大変うれしく思います。

また、職員の人権が保たれることが、子どもの人権や人格を大切にする保育につながると信じて保育運営をしてきました。その中でも特に障がい児が多いとの不安を感じている保護者のために、保育のなかでの障がい児の動きやどのように保育しているのか、また、障がい児からも学んでいることを伝えて理解を得てきました。

入所している全ての子どもが等しく保育が受けられている現状は、心温まるものがあり、保育者として達成感を感じていた点です。その点も評価していただけてうれしく思います。同時に、今後もこの精神を継承しつづけていきたいと思います。

保育士以外の専門職は給食関連の栄養士・調理師になりますが、両者の連携はもちろん保育士との連携も良く、思いやりの感じられる連携の良さが子どもに良い影響を与えていた点も、管理者としての喜びでした。

矢向保育園は、園庭内に畑があり恵まれた環境でした。1年目は栽培を行っても収穫につながらない失敗もありましたが、2年目は栽培活動に対する関心も高まり、「失敗は成功の元」とあきらめず、友人、知人、親戚、保護者、近隣の方々を巻き込んだ活動になりましたが、自然とのかかわりを含め子どもも職員も成長でき、食育にかかわる全ての環境が整い始めた状況も、保護者の評価に現れ、確信に繋げることが出来ました。

「健康管理」「地域支援」は、どの項目も原点に戻り一つひとつ確認し見直すことで明確になりました。この間、児童相談所・小中学校・療育センター・町会・ケアプラザ・ディーサービス・ご近所と連携も多くありましたが、見直しの中でその意義もより明らかになり学ばせていただきました。

全ての面で「細かい」と言われる点まで、一つひとつ分析、実践、確認を行い共有化しながら「園のまとまり」を築いた2年間でしたが、今、個々のモチベーション課題も中長期事業計画等も、具体化できる時期を迎えられたと実感できました。

最後に、保護者の率直な意見を真摯に受けとめ、不安や疑問には園のモットーの1つである「即、対応」を生かし、安心・信頼の保育園づくりに努め、これからも共に子育てが楽しみながらできる園にしたいと思っています。

園長 金城 多眞子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.rakuraku.or.jp/hyouka/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目26番地 洋服会館2階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
